

菊陽人 りさーち



たかしま ひまり
高島 向日葵さん
(7歳・緑ヶ丘)

- 将来の夢
ケーキ屋さん
- 自慢できること
鉄棒
- 今一番やりたいこと
サイクリング
- 家族に伝えたいこと
いつもご飯作ってくれてありがとう

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



つ つうら こころ
津々浦 瑚心さん
(8歳・大堀木)

- 将来の夢
漫画家
- 自慢できること
絵が上手なこと
- 今一番やりたいこと
お母さんと遊びたい
- 家族に伝えたいこと
お手伝いをすぐにするね

心をはぐくむ ゆたかな 人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.52】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

◇印からの文章は先生のコメントです。

この学習をして、どうして被差別部落に生まれただけで周りの人たちから差別を受けなくてはいけないのかと思いました。三年生の時に勉強した「ほんとうの友だち」にも、「白山もんなんぞんおせえ」と、生まれた場所の名前を使って言っているのがありました。それだけでもいいのがあります。「わたしは負けない」の主人公が(ここ)で「差別に負けない」と思ったのは、差別とたたかう意味だっただけで、机のすみに落書きをして楽しいのかな、おもしろいのかなと思いました。

四年生の中で、私の地区に住んでいるのは一人だけです。差別とか受けたことはありません。よかつたなとは思っていません。いやと思つたこともありません。だつてみんな一人一人ちがうからです。人数の多い他の地区に住んでいる人をつらやましがつたことはありません。わたしの地区には小学生が十何人しかいません。人もあまり通つたり通つたりしないところだと思います。だから差別とかがないか不安です。でも、そのことで相談で



▲学年集会で自分やなかまのことを話し合いました

『わたしは負けない』を 学習して

武蔵ヶ丘小4年 村上 奈緒

生きる人はたくさんいます。だからその人たちとつしよにいればこわくもありません。今、差別をしたり、されたりしてないと思つています。自分が差別されないからいいと思つてはなくて、差別のない、安心できる暮らしになるようにしていきたいと思つています。差別をなくすためにどんなことをしていくのかも考えていきたいです。わたしも差別をしている人がいたら注意をしてやめさせたいです。これからもしていきたいです。

また、友だちの発表を聞いて心に残つたことがあります。それは「心が強くなればどんな差別にも立ち向かえる」という言葉です。内側で苦しんで、外側に出さずがまんしているということは、不安があるからだと思います。わたしもそういうことがあると思いました。でも少しづつ解決していつてすつきりしました。でもまだ不安もあります。先生がいなくてふざけて、いるときにはふざけないといつも差別につながると思っています。安心できるクラスにするために、みんなが一人一人気持ちを持ってつなぐればいいと思います。

◇クラスの中のおかしいことに気がつき、なくす行動をする子どもたちが増えてきて、それぞれの不安がなくなり、安心できるようになってきました。自分を不安にさせていたものは、周りが作つた間違つた価値観で、自分には何の責任もないのです。そんなことを日々学習しながら、差別に立ち向かい、本当のなかまとしてつなぐ取り組みをしているところです(担任:木下)。

人としての生き方を 学ぶのはまず家庭から

人権擁護委員 西田眞志子

学校や職場における人権集会や研修会をはじめ、町をあげての啓発活動が促進され始めて久しいが、差別やいじめ問題などが後を絶たないし重大化させているように思えてならない。

理想通り進まないのが世の常とはいえ、より前進するためには大人各人が自らの問題と受け止め日々の暮らしの中で真剣に子どもたちと向き合つことが第一歩であり、その基盤は家庭であると思う。

社会の変化に伴い仕事や雑事に追われることの多い日々であるが、子どもの育成には親や家族が重責を負つ。幼少期から優しさと思いやりや温かみのある人間関係の育成に努め暮らしの中で善悪の判断が自然に身につくよう努める。

「我が身つねつて人の痛さを知れ」との言葉通り人としての生き方は親の元で培われる。それを基に学校教育や地域での交わりの中で集団的な生き方を教わつたり学んだりして成長していく。

家庭における核は子どもへの家族の愛情である。苦勞もあるが、子どもの健全な成長が楽しみでもあり、生きがいとなることだろう。



きくよう文芸

菊陽句会報

補若葉路面電車の城下町	坂本百合子	往く兄と江津湖にボート漕ぎし日も	吉野 早苗
匂ひ来る球磨の流れやつばな咲く	田中 郁子	すれ違ふ老の会話や庭薄暑	井上久美子
天牛のポトリ音して飛び立ちぬ	井 子文	袖の花や鉛筆といで句の思案	日高 妙子
夏夕べ美男健在古希の会	財津 早雪	PM2.5濯ぎものまで夏座敷	曾我 育代
夕闇に螢のあかり夫と追ふ	原野レイ子	阿蘇裾野風のうねりや麦の秋	曾我トモ子
眼裏に旅の紫陽花揺れてをり	力 幸子	隣席の香水はのど落語寄席	紫藤 祥子
枝落とす急きよ梅の実挽きており	寺尾千代子	甘き夢グラスに揺るる藍浴衣	村上 朋子
児等歓声カバの齒磨く梅雨晴れ間	高橋 孝子	雨よ降れ紫陽花の藍溶くるまで	野口 令史
麦刈りや一束ずしり畦におく	堀川 妙子	我が人生浮かず沈まず冷奴	松橋 強
ほろよいの気全開花菖蒲	福田 貴子	英豌豆菜園のですと籠一杯	藤本 純子
キヤベツ畑がじつと息ひそめ	佐藤 健	新会長期待の話術薄暑なる	佐藤 澄世
無為の身は只見るばかり梅雨の空	佐藤 節		

短歌会

梅雨の日に紫蘇の香りに包まれて母の残せし瓶に漬けゆく
給食のスイトコーンは二千本手当たり次第に電話をかける
寄る歳に負けじと急ぐ田んぼ道行けば田蛙ケケケと笑ふ
朝あさに勢ひ伸びる杉苔に留まる露は玉と耀く
紅淡くチクシイバラは群咲きて風はさやかに夏は来にけり
絵手紙に描きたる花に日は差して真赤な花片炎のように
溪谷の道に白々しきえごの花汗ばむ肌如初夏の風吹く
ノクターンの調べにのせて送りゆくありし日の君を胸にとどめん
白き帽子仕上げて鏡に寄りゆきぬ贈らむ人の顔浮かべつつ
大楠のみどりに萌ゆる飲びにブランコ高く一年生踏む

今村 貞子
梅田 國雄
河北 幸一
菊川あさみ
佐藤せい子
下田 久子
中村トシエ
松岡富紀子
山川 カヅ
松本 東亜